





世界へ発信！



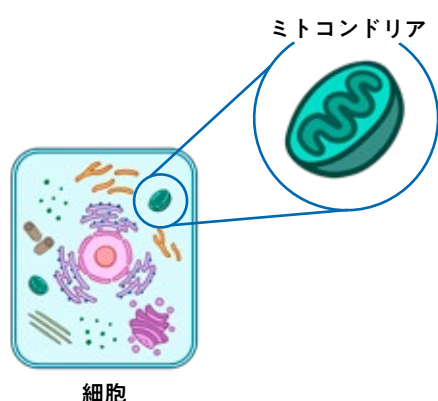
2つのユネスコ遺産

■問合せ 世界ジオパーク・縄文世界遺産推進室(☎ 82-3663)

縄文講演会

「DNAからみた北海道の縄文人」

9月20日(日)、入江・高砂貝塚館にて、第15回とうや湖縄文まつり「縄文講演会」が開催されました。講師には長年、北海道の縄文人骨の「ミトコンドリア DNA」について研究してきた山梨大学の安達登教授をお招きし、「DNA からみた北海道の縄文人」と題してご講演いただきました。



ミトコンドリアとは、細胞の中にある小さな器官で、人が活動するためのエネルギーを作る役割を担っています。このミトコンドリアが持つ DNA は母親の型を受け継ぐため、突然変異がない限り、母方の祖先をまっすぐたどることができるということです。古人骨から集団の系譜を研究するには、とても有効な資料といえます。

このミトコンドリア DNA を縄文人骨から抽出しグループで分類すると、日本列島内で地域差があることが見えてきました。ここから縄文時代の前、旧石器時代の人々が、複数のルートで日本列島へやってきた、ということが考えられます。

では、北海道へはどこからやってきたのか。おそらく「北」からやってきた人々が多かったのではないのでしょうか。調べると、北海道に多いグループがユーラシア大陸東部のアムール川下流域に分布していることがわかりました。ただ、現在はこの地域で多数を占めるグループではないということです。北海道の縄文人は、ユーラシア大陸の旧石器時代人の DNA を保存していた、と言えるのかもしれません。

また、安達先生は「北海道には弥生時代がなく、『続縄文』『擦文』、そして『アイヌ文化』へと続く独自の歴史がある。この歴史を子どもたちが習っていないのはもったいない。ぜひ伝えてほしい」と力説されました。北海道の学芸員として、縄文時代だけでなく、その先の歴史も伝えていかなければと思いを新たにしました。

